

本社 058-264-1151
(FAX) 265-2769
各務原支局 058-383-2220
(FAX) 383-2254
羽島支局 058-391-3352
(FAX) 391-6112
本巣支局 058-324-7820
(FAX) 324-7303

岐阜 地域

卒業から40年を機に、2回目の卒業記念品を残そう。笠松町長池、松枝小学校の1971（昭和46）年度卒業生ら約80人がかつて校庭に作った卒業記念品「県立体模型通称・岩石園」が今、新しく「防災広場」に生まれ変わろうとしている。

岩石園は校舎裏の約50平方メートルの敷地にあった。土を盛って岐阜県山や木曾三川を造形し、コンクリートで固めた手作りの大型の立体模型。当時6年生だった卒業生らは、手分けしてそれらの山々を実際に訪れ、岩を持ち帰って模型に添えるなど、思い入れは強かったという。

だが、卒業から年数がたつにつれて雑草が生い茂り、コンクリートがはがれて徐々に元の形を失っていった。「朽ち果てて、見るも無残だった」と卒業生の一人道家詞典さん（52）＝同町門間＝は振り返る。

破損した箇所で見守りが転倒する恐れもあったため、卒業生の一部が2年前に同窓会を開催し、授業で活用されることもなく放置されている現状を説明し、解体を決めた。その一方で、卒業生の心に

ぎ
幸せ

昭和46年度松枝小卒業生（笠松町）



一緒に芝生を植える道家詞典さんと在校生＝笠松町長池、松枝小学校

岩石園を防災広場に整備する「卒業40周年記念事業」を企画。防災倉庫を置いたり、災害時に児童を保護者に引き渡す場所にする計画だ。

岩石園を撤去した跡地には砂利を敷き詰め、隅には岩石園に生えていたマツの木を再植。その付近には、隣接する岐南町の保育園から分けてもらった芝生を、6月下旬に在校生と一緒に植えた。6年生の植村和佳菜さん（12）は「きれいだ」と思ってもらえるように芝生を植えた。大切にしていきたい」と決意を語る。

道家さんは「あのままで誰にも見向きもされないよりずっといい。ぼくらの二つ目の卒業記念品が、子どもたちや地域の人に愛されるような広場になれば」と、姿を変えた卒業記念品に希望を持つ。

防災広場には今後、新しいプレートを設置し、8月中旬に完成する予定。（篠原麻希）

40年ぶり2度目の「卒業記念」

は思い出の岩石園がなくなる。さんら有志6人が発起人となり寂しさが色濃く残った。道家 って学校などと協議を重ね、

先日、母校のコンクリート塀が真っ白に塗り替えられていたことに気付いた。在校時、ペンキで鮮やかな絵を描いた。知らぬ間に無味乾燥に変わってしまったその塀に大きなショックを受けた。

記者のひとこと

「芝生がちゃんと育ってくれるといいな」と満足そうに話す道家さんの言葉から喜びがこぼれる。大切な思い出が再び学校に残り、次世代に受け継がれていくように思え、少しうらやましかった。